

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	目野 郁子	職名	教授	学位	博士 (医学) (九州大学 1994 年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 予防接種免疫抗体

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園をモデルに感染症流行を制御するために効果的な感染症予防対策について検討する。 ・ 看護学科 1 年生を対象にした 2020 年度の初年次教育プログラムについて教育効果の検証を行う。

担 当 授 業 科 目
感染と免疫 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (福祉) 初年次セミナーI (前期) (看護) 初年次セミナーII (後期) (看護) 微生物学 (後期) (福祉)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p><u>授業科目名【感染と免疫：看護】</u></p> <p>①例年は教科書を中心に講義を行い、パワーポイントを使い補足説明を行うという方法を取っていた。しかし、今年度は、オンライン講義ということで、学生の学びの習熟度をあげるために、最初にパワーポイントを使い講義の要点を説明し、振り返りに教科書を使うという形式をとった。</p> <p>②パワーポイントで作成した資料は、見やすいことを第一に考え、学生が選んで印刷できるように印刷パターンを二種類準備した。また、スライドには、振り返りの際に教科書と連動できるように該当する教科書のページ番号を入れた。</p> <p>③科目内容には、感染症を主軸に解剖・生理を意識した内容を入れ専門基礎科目や専門科目に繋ぐようにした。</p> <p>④今年度は、オンライン講義のため、学びの習熟度を把握しながら習熟レベルを担保する目的で、毎回、講義後に Google Forms を使い、講義に関する意見・質問を受け付けた。その結果をもとに講義開始時に前回の講義の振り返りを行い、質問・意見に対する応答を行なった。この学生の意見・質問は、毎回印刷し資料として学生に配布した。</p> <p>⑤小テストは、学生に復習する機会を設ける意味で回数を 2 回に増やした。</p> <p><u>授業科目名【生物と生命科学：看護】</u></p> <p>①高校で学ぶ生物の内容を基盤に、大学の学びへと展開できるような内容を加え講義内容を組み立てた。特に、看護学科では、専門教育につなぐために"体の構造と機能"を知り、その上で疾病が生じる原因を根拠に基づき説明できるように、疾病モデルをいくつか提示し講義を行った。</p> <p>②受講動機が、"関心ある内容と答えた学生が 80%"、"単位取得のためとする学生が 57%"であり、学生に興味関心を持ってもらうため身近な疾病モデルを講義の題材に選んだ。</p> <p>③今年度は、オンライン講義のため、学びの習熟度を把握しながら習熟レベルを担保する目的で、毎回、講義後に Google Forms を使い、講義に関する意見・質問を受けた。その結果をもとに講義開始時に前回の講義の振り返りを行い、質問・意見に対する応答を行なった。</p> <p>④上記の学生の意見・質問は、毎回印刷し資料として学生に配布した。</p> <p>⑤小テストは、学生に復習する機会を設ける意味で回数を 2 回に増やした。</p>

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

- ①高校で学ぶ生物を基礎に大学の専門教育に生かすことができるような内容を加え講義を行った。この科目では、人体の生物学に焦点を当て、体の正常なしくみと異常(疾患)に焦点を当て説明した。
- ②特に受講生の90%が、「関心のある内容である」と回答しており、日常生活にこの講義を生かすことができるような内容を含めた。
- ③今年度は、オンライン講義となったため、学びの習熟度を把握し、習熟レベルを担保する目的で、講義の後に毎回 Google Forms を使い、講義内容に関する意見・質問を受ける場を設けた。その結果をもとに必ず前回の講義の振り返りを行うとともに質問・意見に対する応答を行なった。
- ④上記の学生の意見・質問は、毎回印刷し資料として学生に配布した。
- ⑤小テストは、学生に復習の機会を設けるために回数を2回に増やした。

授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。
- ②講義を2コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるような課題発見のためのシートなども改良した。
- ④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索は CiNii、Google Scholar の利用方法について説明を行った。
- ⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。
- ⑥ DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができるようにした。
- ⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを1つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【微生物学：福祉】

- ①例年は教科書を中心に講義を行い、パワーポイントを使い補足説明を行うという方法を取っていた。しかし、今年度は、オンライン講義ということで、学生の学びの習熟度をあげるために、最初にパワーポイントを使い講義の要点を説明し、振り返りに教科書を使うという形式をとった。
- ②パワーポイントで作成した資料は、見やすいことを第一に考え準備した。スライドには、振り返りの際に教科書と連動できるよう該当する教科書のページ番号を入れた。
- ③講義進行に合わせポイントの整理を配布し、講義の振り返りを早期からするよう促した。また、小テストは例年1回実施していたが、より学生に復習する機会を設ける意味で回数を2回に増やした。
- ④特に、実戦に役立つような知識の習得を目指し、基礎的な知識の習得の後に学校や医療福祉現場での感染症対策・対応について講義を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本細菌学会		1987年4月～現在に至る
日本感染症学会		1996年4月～現在に至る
日本小児保健協会		2000年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2004年4月～現在に至る
日本ワクチン学会		2016年4月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
<ul style="list-style-type: none"> 福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において、食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。 遠賀・中間地区保育協会の会員を対象に「感染症予防について」というテーマでe-ランニングによる研修を行なう。 	委員	2019年5月1日～2021年4月30日 2020年3月5日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

- ・人事委員会委員 2017年4月1日～ 現在に至る
- ・動物実験委員会委員 2016年4月1日～ 現在に至る
- ・保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～ 現在に至る
- ・公的研究費内部監査部門担当者 2017年2月～ 現在に至る
- ・看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当
課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。
- ・学生の健康支援
保健室と協働で保健福祉学部、人文学部、および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない(予防接種手帳配布・抗体検査結果配布)、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011年～現在に至る。
(今年度は新型コロナ感染流行により実施できていない)